



命と場所を守る
市政を!

横浜市会議員 / 看護師・防災士・博士(心身健康科学)

青葉台小・桐蔭・慶応大

田中 ゆき

討議資料

22
2022.03



プロフィール

- 青葉区育ち、青葉台小学校
- 桐蔭学園高等学校 / 桐蔭会(監事)
- 慶應義塾大学商学部 / 体育会ボート部
- 人間総合科学大学大学院
- 日本航空CA(客室乗務員)
- 看護師(病院・企業・学校・保育・地域包括)
- 桐蔭横浜大学保健室
- 衆議院議員江田けんじ秘書
- 所属委員会(常任)温暖化対策・環境創造・資源循環委員会(特別)郊外部再生・活性化特別委員会(副委員長)

Vol.22

空家が利活用されるまちへ!

1 空家とは...

国土交通省の「**空家法**」による

1年間居住なし

電気・ガス・水道の使用なし

*「空家等対策の推進に関する特別措置法」(2015年5月施行)

2 火災 周囲に悪影響

火災

樹木

害虫

ごみ

倒壊

3 横浜市 空家等に係る適切な管理措置等に関する条例※が施行されました

換気・掃除等...

適切な管理が義務化

所有者

※2021年8月1日施行

4 横浜市の空家は増え続けています

増加

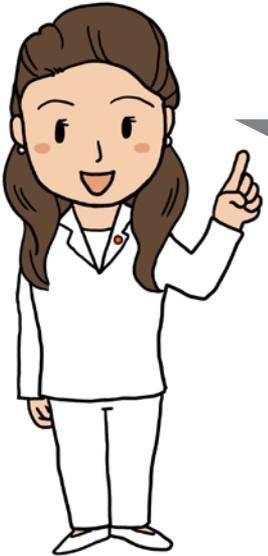
空家数

周辺住民

所有者

相談窓口の活用を!

支援制度



空き家を放置しないまちへ!

空家とはおおよそ1年間、居住がなく、電気・ガス・水道の使用がない家とされています。適切に管理されず、倒壊や害虫、放火、樹木の繁茂等、周辺の住環境に悪影響を及ぼす空家が増えています。横浜市では、2021年8月に「横浜市空家等に係る適切な管理、措置等に関する条例」を施行し、空家の所有者に対して空家の適切な管理を義務化しました。近隣の空家でお困りの方は青葉区区政推進課(045-978-2221)へ、空家所有者でお困りの方は横浜市建築局住宅政策課(045-671-4121)へご相談ください!

「地域福祉充実のための、空家活用の推進」

横浜市会第3回定例会一般質問

2021年12月10日

今後横浜市では、少子高齢化や人口減少に伴い、空家が増加し続けることが予測されます。また倒壊や害虫、放火、樹木の繁茂等、近隣に著しい悪影響を及ぼす恐れのある特定空家も増加の恐れがあります。私は2021年12月の議会で空家の利活用により、地域福祉の充実をはかるために、市長へ質問、提言を行いました！

市長へ提言

横浜市の空家利活用における課題

空き家マッチング制度の対象が限られている！

課題1 福祉サービス事業所用地が見つからない！

「訪問看護事業所や、障がい者グループホームを市内で開設したいが、物件が見つからず、開所できない」と、事業者からお困りの相談を受けることがあります。高齢になっても、障がいを抱えても、住み慣れた我が家、地域で暮らし続けるには、地域福祉サービスの充実が重要です。物件が見つからず、開所できない状況は**施設の偏在化**が起こるなど、地域によっては、**市民サービスの低下**につながる恐れがあります。

提案!! 空家活用マッチング制度は、地域貢献・活動拠点を探す団体等を対象としているが、地域福祉サービス事業所等へ対象を拡大すべきである。

課題2 横浜市空家マッチング制度の課題点

横浜市建築局では、2021年4月から、空家所有者と、地域貢献・活動拠点を探している団体や事業者とを結びつける、「**空家活用のマッチング制度**」を開始しています。本制度は、子育て、高齢者、障がい者就労、地域活動等と**対象が限定**されています。訪問看護ステーションや障がい者グループホームなど、地域福祉サービス事業所等も含め、地域課題解決に繋がる施設にも対象拡大すべきと考えます。

マッチング制度では、地域貢献施設は高齢者、障がい者、子育て、まちづくりなどの活動拠点を対象としているが、**福祉関係の事業所等の相談についても、幅広く対応していきたい。**

実現へ

市長

地域課題解決への活用の視点が足りない！

課題3 縦割り行政でなく、横断的に！

地域貢献施設に対する支援には、区役所や健康福祉局、市民協働推進センター、社会福祉協議会など、様々な団体が関わっています。そのため、空家マッチング制度では、建築局をはじめ、関係区局や各種団体が、**横断的に連携**して取り組み、事業者や地域住民のニーズに合った、**空家の活用促進**と、**地域福祉の充実**を結びつけることが重要と考えます。

提案!! 地域貢献施設に対する支援には、関係区局の他様々な団体が関わっている。マッチング制度では、関係区局や団体が、横断的に連携して取り組み、空家の活用促進と地域福祉の充実を結びつけることが重要である。

課題4 子育て世代や若者の住宅負担軽減を！

共働きの子育て世代の方から「両親のサポートを受けられる青葉区で暮らし続けたいが、子ども達の成長で住居が狭くなり、転居を検討している。青葉区は**住宅費が高い**ため、他区への転居も検討している。」との声が聞かれています。空家マッチング制度を**子育て世代や若い世代に活用**することで、地域課題の解決にもつながると考えます。

対策協議会や相談窓口、専門員派遣などで、建築・法律・まちづくり等の団体と連携しながら空家対策全般に取り組んできた。今後、空家活用をより一層推進するため、**福祉、子育て支援等に関わる区局や団体とも連携をはかっていく。**

実現へ

市長

横浜市の空家利活用における更なる提言

- 空家活用マッチング制度は、子育て世代や若者の、住宅費の負担軽減にも活用できる。
- 住み慣れた地域で安心して暮らし続けたいという、市民の思いに応えられる制度へ！